

第8回 多摩市自治推進委員会 要点記録

日 時：令和3年2月18日(木)18:00～20:00

場 所：多摩市役所3階 特別会議室

出席委員：大杉覚委員、小川大介委員（オンライン）、寺田美恵子委員、林久美子委員、古瀬郁子委員

欠席委員：大澤俊哉委員

オブザーバー：合同会社 MichiLab 高野義裕代表、中央大学中村大輔准教授（オンライン）

事務局：浦野副市長、藤浪企画政策部長、田島市民自治推進担当部長、原島健幸まちづくり推進室長、
水谷福祉総務課福祉総務担当主査、秋葉企画調整担当主査、西村企画調整担当主査、雨宮

傍聴者：1名

議事次第：配付資料「第8回 多摩市自治推進委員会 議事次第」のとおり

1 開会

委員長 第8回第七期多摩市自治推進委員会を開催する。

まず、事務局から資料の確認をお願いしたい。

事務局より、配布資料の確認を行った

委員長 次に、第7回委員会の要点録の原案について、修正はないか。

修正はないようなので、これで確定とする。

2 報告

委員長 次に「報告」に移る。事務局から資料説明をお願いしたい。

事務局 参考資料1について。本来だと、モデルエリアの取組みを踏まえて行う予定だったが、緊急事態宣言の影響を踏まえた現時点の状況を報告したい。

参考資料1に基づき報告

委員長 今の内容について意見はあるか

委員 若者会議をエリアで行うということか。

オブザーバー その通りである。通常の若者会議は広く周知して市内外から人を集めているが、今回は市役所から対象エリアに住んでいる方に案内を送付する。

委員 無作為抽出か。

事務局 その通りである。合同会社 MichiLab と、地域福祉推進委員会主催のイベントを一緒に行い、さらに若者の参加により地域を盛り上げようというまち歩き及びワークショップを行おうと思っていたが、地域福祉推進委員会のイベントが中止になったので、市からの呼びかけで行うことにした。

委員 規模はどのくらいか。

事務局 無作為抽出により16～40の年齢の1,800人くらいを対象として招待状を発送する。どのくらい来てくれるかはわからないが、最大40～50人くらいの規模と考えている。先日、行政評価市民フォーラムという別事業で、若者を対象に合同会社 MichiLab の協力でオンラインのフォーラムを行った。社会人1年目にあたる23歳2,000人ほどに送付し、実際の参加者は10名ほどだった。今回はより幅広い年代を対象に行う。

- 委員長 若い世代だけだと集まりにくいのかかもしれない。全年代だと 40～50 代が集まりやすいのか。
- 委員 「行政評価」というテーマは少しとっつきにくいので若い参加者は集まりにくいのかかもしれない。
- 委員長 わがまち学習講座の対象年齢は 15 歳からであった。第 1 回の開催では、中学生もおり、高校生もいた。呼びかけると関心を持ってもらえるのだと実感した。エリアで行うにあたり、他のエリアの人も関心を持って入ってこられるようにやるのもよいかもしれない。今回は厳しいかもしれないが、若者会議でも、多摩市内に住んでいる人だけではなく市外の人も関心をもって参加している、そういう人にも入ってもらえるとよいと思う。
- 事務局 緊急事態宣言もあり事前の周知があまりできていないが、今後やっていきたい。

3 (仮称) 地域委員会構想の考え方について

- 委員長 次に、「(仮称) 地域委員会構想の考え方について」に移る。
- 前回の委員会で、「(仮称) 地域委員会構想」の中長期スケジュールが示され、そのなかで令和 2 年度に整理するとされていた、「考え方 (方針)」案について、説明してもらいたい。11 月頃に自治推進委員会から行う答申は、この「考え方 (方針)」に沿うかたちで考えていくことになる。
- まずは事務局から資料説明をお願いしたい。

事務局より、資料 30、参考資料 2 について説明

- 委員長 今の内容について、質問や意見等はあるか。また、モデルエリアに取り組んでいるオブザーバーから補足事項等はあるか。モデルエリアを進めていて、どんな様子であるか。
- オブザーバー 馬引沢・諏訪では、地域福祉推進委員会の開催回数が非常に少なかったこともあり、モデル事業が始まったばかりである。そのなかでは、地域の中に自分たちが出ていったときに、好意的で建設的な関係で受入れてもらえるようになれたことは大きい。自分たちが提案したことが受け入れられて、その方向でやっていくことになった例もある。広報誌、YouTube、Web の連動である。その取組みは商店への取材の前の段階で緊急事態宣言が出て動きが止まってしまったが、少しずつ進んでいる。
- オブザーバー 東寺方小学区では、実質的に 7 月からはじまり、先ず 8 月にアンケート調査を行った。集計は、単に何パーセントの回答があったかということに限らず、掛け合わせの集計により、どのような方がどういったことを求め、多忙な方々は何を求めておられるのか、という属性ごとの集計を行っている。エリアミーティングは第 2 回まで行うことができた。自治推進委員会の委員もお越しくださり雰囲気を感じていただけたと思う。第 1 回は、多くの人からの関心が寄せられている「防災」について知る機会とし、呼びかけの雰囲気づくりを試みた。お一人の若い男性から、第 1 回エリアミーティングで、「今まで地域に関わりはなかったが、実は地域活動に関わりたいと思っていた」とのお言葉をいただき、実際に第 2 回エリアミーティングにもお子様を連れてご参加くださったことがとても印象に残った。第 2 回のまちづくりシミュレーションゲームは、内容のレベルが非常に高かったが、それがよかったと思う。その理由は、課題について、自分たちが発意した課題ではなく与えられた課題に対応する難しさを体験いただいたという点である。すなわち、逆に、自分たちで状況を把握し課題を主体的に考えていく第 3 回のテーマ「地域カルテ」の意義を掴み取ることに繋がると考えられる。第 3 回は延期となったが、3 月 21 日に開催できればと思っている。そのなかで、地域カルテや「(仮称) 地域委員会構想」がどのようなものなのか、参加者に触れていただきながら、

意見を受けたり共有できればよい。以上が令和2年度の到達目標である。令和3年度の目標は、地域住民（参加者）にどういうことが必要とされているのかということヒアリングできればよいと思う。今は、令和2年度の研究の中間報告書を作成しているところであり、関係者に製本配付するとともに、PDF版でもデータ公開しより多くの方に成果を発信していきたい考えである。また、4月に入ってから、住民向け報告会により令和2年度の取組みをわかりやすく体系的に伝える場を設けたいと思っている。

第2回までのエリアミーティングを行い分かったことだが、地域を担っている方々は、一人または少人数で、大きな責任感を背負って重責を担い地域を支えている。その現状を見る周りの方々は、「それを背負うことはとてもできない」と思い二の足を踏んでしまう。そのような状況を、「10人や20人で分担し、少しずつの負担を分かち合って協力し合う」ようにしていくことが必要となる。それが「（仮称）地域委員会構想」であることを伝えていきたいと思っている。

委員長 今説明された内容も踏まえて、意見等何かあるか。

委員 地域カルテがベースになることはとてもよいと思う。地域情報の共有に関連して、馬引沢・諏訪地区の「ささえ愛」は多摩市社会福祉協議会の地域福祉推進委員会が発行している地域の情報誌だと思うが、福祉分野からアプローチを行うということか。

オブザーバー 本来、地域福祉推進委員会は、福祉課題を意識したものだと思うが、馬引沢・諏訪地区は、元々タウン誌的な役割を持つ情報誌を発行している。商店を横につなぐ、馬引沢通り沿いの商店のウォーキングラリーの開催も行ってた。それを、多摩市若者会議と一緒に盛り上げたり、YouTubeと連動させようという予定だった。ネットからも情報誌の紙面からも双方に行き来できるようにし、若い世代の地域への入り口をつくろうというアプローチだった。それは、地域の応援にもなるというものである。

委員 それで、「わが事、まるごと」につながっていくのか。

オブザーバー 馬引沢には、単身か新婚で子どものない世代の方が多く住んでいる。まずは、地域というものをそれぞれが関わりのある部分での接点をつくることから始めることが第一歩であると思っている。そこから、多摩市若者会議の取組みや、地域福祉推進委員や自治会とつなげていきたい。どうしたらスムーズにつながるか、まだ見えているものではないが、まずは接点づくりを行っている状況である。

委員 馬引沢通り沿いの商店は、商店会としての集まりで活動しているものか。それとも、単にまちをお知らせするというものなのか。

オブザーバー このエリアには商店街は2つある。一つは、諏訪名店街である。こちらは商店街として計画的につくられたもので、任意団体として「多摩諏訪名店会」という商店会を結成し活動している。もう一つは、馬引沢通り沿いにお店が自然発生的に集結しているものである。こちらは商店会は結成しておらず、結成しようという動きはほとんどない。このエリアを盛り上げようとする、実質的に地域福祉推進委員会と協力してアプローチすることになる。

副委員長 令和2年度モデルエリアは、既存・NTの2タイプからそれぞれを選んだということだが、それぞれのエリアのタイプの違いや、地域福祉推進委員会の有無で見えてきたことの分析は行っているのか。というのは、馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会が、従来イメージされてきた福祉よりというよりは、もっと広げたアプローチを行っているのがとてもよいと思っている。そういう取組みが多いのであれば、地域福祉推進委員会をベースに今後も取組みを展開していくのもよいと思うが、どう考えるか。次のモデルエリアの選定にもつながってくると

思う。

事務局 令和2年度モデルエリアとして、地域福祉推進委員会がエリア内で横断的に動いているエリアと、そのような横断的な組織がないエリアと、2タイプ選んでやってきた。馬引沢・諏訪のエリアでは、馬引沢通り沿いの商店を盛り上げていくことでネットワークをつくろうという、福祉を広くとらえた取組みをしている。馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会の令和2年度から令和4年度の活動目標として「多様な世代・団体と協働する地域にしよう。市民と地域商店などの連携を通じて、市民発信での地域活性化を目指そう」というものがある。これはまさに「(仮称)地域委員会構想」とつながる考え方であるのでモデルエリアとして選定した。令和2年度はコロナの影響により、このような地域活性化のイベントを行うことができていないため、多世代の交流機会は持っていない。地域福祉推進委員会への参加者は高齢の方が多く、若い世代の方にも入ってもらおうということを目指して、エリア版若者会議を行っていききたいと思っている。

副委員長 他のエリアの社協はどうか教えてほしい。そういう福祉分野を広くとらえた目標を掲げているエリアがあるかどうか。

事務局 地域により活動目標を定めているが、多世代の交流を目標としているエリアはいくつかある。エリアでいうと、第1エリア(関戸・一ノ宮)、第2エリア(連光寺・聖ヶ丘)など。高齢化が非常に進んでいるエリアでは、地域の中で支え合いの活動をしていくことや見守り活動をしていく等、安心して生活していけるように、と考えているところもある。

副委員長 新たな組織ができるとそのための仕事ができしまい、無駄な仕事ができしまう。地域福祉推進委員会という既存の組織があり、そこでできることがあれば、そこを活かしてつなげていくことができればよいと思った。

委員長 馬引沢・諏訪地区の地域福祉推進委員会がなぜ福祉以外の分野に関わろうと思ったかの経緯がもしわかれば、それが重要な要素になると思う。馬引沢エリアでうまくいったから他のエリアに同様に広げていこうとしてもうまく広がらないということもありえる。

事務局 地域により異なる。馬引沢エリアは、新たな人を受け入れていくという土壌があるエリアであると思う。エリアとして若い人が多く住むエリアである。

委員長 他のエリアにそのような土壌があるかないか、また、今ある器(地域福祉推進委員会)が使えるかどうかということも今後考えていく必要があると思う。

地域でよい人がいることもあると思うし、なかなか引き継いでいく人がいないということもあると思う。全市的につくっていくにあたり、普遍的なことや個別のことを整理したい。

委員 NPO法人を運営しているため、福祉という視点からまちを眺めることが多い。個人商店を切り盛りしている人が街を支えていることは大事である。ただ、地域での支え合いという観点では、地域の人同士が顔を知っているというだけでは不十分であり、その次の段階として、地域の人同士がお互いに提供できることや困りごとがどのようなものであるかがわかっている状態を目指すべきである。福祉分野からすると、福祉の事業所だけで街を支えていくことが難しいのはもちろんである。いずれにしても新しいことに取り組むときに、今ある一步を足場として次へ進めていくことはもちろん承知しているが、福祉にとらわれずもう少し若いエネルギーを活かして目線を上げて取り組んでもらいたい。

オブザーバー 個人的に一番期待しているのは、令和3月3月28日に開催予定の馬引沢・諏訪エリアのエリア版若者会議にどんな人が参加してくれ、一緒にやっていけるかということである。エリアに住む若い人が、自分たちの取組みにより「何かできるんだ」と気づいてくれたら、その

動きをサポートしたいと思う。この動きが一番期待しているものである。実際に住んでいる人たちと話をしてみないとわからないことが多い。見えてきたことから取組んでみようと思っている。これが、「(仮称) 地域委員会構想」や多摩市の魅力になるよう育てていきたい。

委員 p.34 の地域担当職員の A~F があるが、初期段階で満足されると残念なので、よろしく願いしたい。

委員長 これは初期段階なのでここには出てないが、そういう動きが出てきやすい土壌をつくるのが、「(仮称) 地域委員会構想」である。営利でなくとも、ビジネスとして地域のことに取り組むことがあってもよいだろう。高野代表には、支援だけでなくプレイヤーとしても活躍してもらいたい。他の多くの団体や主体にも出てきてもらい、活躍してもらえるとよい。

4 令和3年度モデルエリアについて

委員長 次に、「令和3年度モデルエリアについて」に移る。

令和3年度モデルエリアについて、前回で議論した内容を踏まえて事務局が各エリアの特徴を資料へ落とし込んだということである。

まずは、事務局から資料説明をお願いしたい。

事務局より、資料 31、参考資料 3 について説明

委員長 何か意見等はあるか。前回、地域の課題を考慮してはどうかという意見があった。

委員 令和2年度モデルエリアを選定するときに、コミュニティエリアと学区が一致するエリアか否かということを検討してエリアを決定した。地域のよい点や弱点も見えてきて、今後を考えるよい機会になったと思う。特に参加者にとって、自分の生活するエリアを見直す好機になったのではないかと。令和3年度のエリア選定にあたっては、コミュニティエリアと学区が一致するエリアと一致しないエリアから1エリアずつ選ぶことも有効かと思う。また、自治会の動きや住民同士のつながりの弱いエリアを選ぶということも、地域のつながりを見つめ直し、深める機会になりよいと思う。

5 地域担当職員制について

委員長 次に、「地域担当職員制について」に移る。

前回に引き続き、「(仮称) 地域委員会構想」の柱として「支える」「つなぐ」「掘り起こす」という3つのキーワードのうちで、「支える」の重要な部分となる、地域担当職員制について議論したい。

事務局より、参考資料 4 について説明

委員長 今までの議論に加えて第3回エリアミーティングも踏まえて議論を詰めていければよいと思う。今までの話でもあったが、単なる人手として動員するのとは違う。また、リーダーを見つけるというものではない。地域を支える住民が、丸抱えはしないこと、自分ができないことはできる人を探せばよいというしくみを用意することが大事である。

6 その他

委員長 では、次第6「その他」だが、何かあるか。

事務局 オブザーバーの話で印象的だったのだが、現在リーダー的な存在として地域の活動を1人や少数で担ってくださっている方がいるが、そのような方がこれまで1人でやってきたことを10人でシェアして担えるようにしないと地域の運営は成り立たなくなる時代がもうすぐ来

と思う。それをしくみとして回せるようにするのが、「(仮称) 地域委員会構想」である。こういうしくみをつくる必要があるとわかってもらえたらよい。

委員 その認識はもちろんある。ずっとニュータウン第一次入居エリアでやってきた。「いきいきまちづくり」を掲げて NPO 法人の運営をやってきた。既存エリアとニュータウンエリアの違いとして最近思い至ったのは次のことである。多摩ニュータウンは元々国策で造られた人工のまちで、できて 50 年ほどで歴史はあまりなく、20 万超の人口があるが、傑出したリーダーにはなかなか会えない。引越していってしまう人も多い。最近「ふつう」であることがとても大変な時代になってきたと実感している。普通の人たちが人生 50 年、100 年とその時間をニュータウンで過ごすことで成長していく自分を見つけ出せるようなまちだと思っている。そういう気持ちで、高野代表にエールを送った。たくさんの普通の人たちが 50 年という時間を送ってきたまちである。傑出した人ではない。そういう人たちが安心して人生の最後のステージまで進める、そういうまちであってほしいと思っている。

オブザーバー 多摩市若者会議という立場なので普段は言わないことだが、自分もニュータウンで育ってきたので、先輩たちがいかにニュータウンを愛してきたか知っている。自分自身もできる限りニュータウンをよくしていきたいという気持ちで取組んでいる。

委員長 別のところで地域の取組みを支援しているが、そこでもコミュニティのリソースが厚いと言われている。ただ、それはこの 20~30 年築いてきたものなので、代替わりが非常に難しいと思う。代替わりできないと続いていかないだろうと思っている。2040 年問題といわれるのはそこであり、都市部では共助の受け皿が乏しいことや、生活支援機能を担ってきた地縁組織は高齢化と人口流出により機能が低下する。そこでプラットフォームを創ろうということが言われている。自分自身は、プラットフォームでよいかと疑問にも思っている。元々ある地域のリソースがどういうものであるか、足りないものは何かをよく見ていかなければならないと思っている。皆さん色々な立場であり色々な視点からみている。それは当然である。地域委員会というものをつくるにあたり、色々な人が色々な見方をする。色々な議論をしていければよいと思っている。地域ごとにも違いがある。コロナの影響もあり、モデル事業の取組みが進まないなかで、事務局はもっとどんどん進めたいと思っているだろうが、個人的にはまだまだ考えるべき点があり、じっくり議論することができてよかったと思っている。

事務局 次回の第 9 回自治推進委員会は、令和 3 年 4 月 15 日(木)18 時 30 分から開催する。また、その前 17 時 15 分から勉強会を開催する。また、勉強会で扱うテーマについて提案があれば、事務局まで連絡してほしい。

7 閉会

委員長 それでは、第 8 回の多摩市自治推進委員会をこれで閉会する。